

(第六類 第六號)

第七十四回帝國議會 昭和十二年法律第五十七號中改正法律案
衆議院 (鐵ノ輸入税免除ニ關スル件) 外一件 委員會會議錄(速記)第十八回

付託議案(審査終了ノモノヲ除ク)
帝國鑛業開發株式會社法案(政府提出)

會議

昭和十四年三月十四日(火曜日)午前十時四十五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 八角 三郎君

理事寺島 權藏君 理事木村作次郎君

理事卯尾田毅太郎君 理事大内竹之助君

理事長谷 長次君

高橋壽太郎君 原 玉重君

川副 隆君 宮脇 長吉君

中田 儀直君 田尻 生五君

加藤 鑛造君 小野 謙一君

出席政府委員左ノ如シ

商工參與官 澤田 利吉君

商工省鑛山局長 小金 義照君

商工書記官 山本 茂君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

帝國鑛業開發株式會社法案(政府提出)

○八角委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス——

卯尾田君

○卯尾田委員 生産力擴充ノ見地カラ見マシテモ、國際貸借ノ關係カラ見マシテモ、

延イテ國防力充實ノ意味カラ見マシテデモ、本法案ノ提出ノ遅カッタコトヲ寧ロ私

達ハ憾ムノデアリマス、重要鑛物増産法ノ

ミニ依ツテハ、決シテ所期ノ目的ガ達成出來ナイモノト信ジテ居ツタ、故ニ本案ノ提出ヲ歡迎スルモノデアリマス、第一條ノ資本ハ三千万圓デ、拂込金額ノ五倍ハ債券ヲ以テ資金ニ充當サレル、若シ全額ガ拂込マレタナラバ一億八千万圓ノ資金ガアルノデアリマシテ、昨日高橋君カラモ大臣ニ對シテ、是デ資金ハ本法ノ促進ニ十分ナ資金デアルカト云フ御質問ニ對シテハ、十分ダト云フ御説明モアリマシタガ、改メテ實際是ガ監督指導助長ノ任ニ當ラレル關係者カラ、重ネテ是ガ所要資金トシテ満足カト云フコトヲ御尋シタイノデアリマス

○山本政府委員 只今卯尾田サンカラ産金會社ノ資本金ガ五千万圓デアルノニ、此ノ帝國鑛業開發株式會社ノ資本金ハ三千万圓デアアル、其ノ點少キニ失シハシナイカト云フ御尋ガアツタノデアリマスガ、此ノ會社ノ資本金ハ一應事業計畫トシマシテハ、植民地ノ方ヲ拔イテ居ルノデアリマス、ソレカラ此ノ會社ノヤル仕事ト致シマシテハ、産金會社ガ融資ヲ主トシマスノニ比ベマシテ、此ノ會社ハ貧鑛ノ處理、休眠鑛區ノ開

發ト云フヤウナ仕事ヲ主ト致シテ居ルノデアリマシテ、第二義ノニ寧ロヤルト云フコトニナツテ居リマスノデ、三千万圓ノ資本金デ、其ノ五倍ノ社債ヲ發行スレバ、差當リ十分ダト考ヘテ居ル次第デゴザイマス、尤モ此ノ法律ノ規定ニ依リマシテ、政府ノ認可ヲ受ケテ増資ヲスル途モ開ケテ居リマスノデ、必要ニ應ジテ資金ヲ増加スルト云フコトモ考ヘテ居ル次第デゴザイマス

○卯尾田委員 去ル十一日政務次官カラ本案ノ提案理由ヲ説明サレテ居リマス「銅、鉛、亞鉛、錫等ヲ初メ各種ノ所謂重要鑛物ハ、茲ニ事新シク申述ベルマデモナク、國防上竝ニ産業上ノ基礎的資材デアリマシテ」云々ト申サレテ居リマス、又第一條ニ「帝國鑛業開發株式會社ハ重要鑛物(金鑛及砂金ヲ除ク)ノ資源ノ開發ヲ促進シ」云々ト書イテアリマス、隨テ之ニハ重要鑛物デアアル硫黃モ含シテ居ルモノト思フガ、其ノ點ハ如何デスカ

○山本政府委員 此ノ法律デ重要鑛物ヲ目的トスルト規定シテ居リマスガ、此ノ重要鑛物ト云フコトハ、此ノ法律ノ中ニハ明ニシテ居リマセヌノデアリマスガ、大體昨年公布ニナリマシタ重要鑛物増産法ノ第一條

ニ、重要鑛物ト云フモノガ二十二種掲ゲデアリマス、尤モ其ノ中金鑛及ビ砂金ヲ除キマシタノハ、金及ビ砂金ニ付キマシテハ、日本産金事業株式會社ノ方ノ事業ニナリマスノデ、ソチラノ方デ増産計畫ガ立テラレルト考ヘテ、ソチラノ方ハ除イタ譯デアリマスガ、大體重要鑛物増産法ニ二十二種ノ鑛物ヲ掲ゲデアリマス、ソレガ大體重要鑛物ノ範圍ニナルト考ヘテ居リマス、併シ必ズシモ重要鑛物増産法ニ掲ゲタ鑛物バカリヲ言フノデアアリマセヌノデ、重要鑛物増産法ノ方ハ、色々時勢ノ進運等ニ依ツテ伸縮性ヲ持タセル意味デ、勅令ヲ以テ更ニ鑛物ヲ増加シ得ル途ヲ開イテ居ルノデアリマシテ、此ノ會社ノ目的トシテ、重要鑛物増産法ニ掲ゲデアアルモノ、或ハソレヨリ範圍ガ廣クナルカモ分ラヌノデアリマス、只今御尋ニナリマシタノハ、重要鑛物増産法ノ方ニ明ニ掲ゲテ居ルノデアリマシテ、本會社ガ増産ニ付テ色々心配スル目的ノ鑛物デアアルコトハ明ナコトデアリマス

○卯尾田委員 明ナ御答辯ヲ得マシタカラ、心配ハナイノデアリマスガ、其ノ中デ資金關係カラ見テ、或ハ硫黃ガ落サレルノデハ

第六類第六號 昭和十二年法律第五十七號中改正法律案(鐵ノ輸入税免除ニ關スル件)外一件 委員會會議錄(速記)第十八回 昭和十四年三月十四日

一

一

一

ナイカト云フヤウナ浮説ガアリマシタカラ、重ネテ念ヲ押シタノデアリマスガ、御承知ノ通り硫黄ハ、我が日本ノ持タザル國ニ於テ、唯一ノ持ツテ居ル礦石デアリマシテ、從來ハ幼稚ナ産業デアリマシタガ、昨今ハ殆ド人絹其ノ他ノ化學工業「バルプ」、サウ云フ方面ノ用途ガ驚異的ニ増加シタバカリデナシニ、亞米利加、伊太利等ニ於キマシテモ相當出マスガ、軍需關係カラ特ニ是ガ國內ニ留保サレテ、輸出ヲサレテ居ラナイ實情カラ見マシテモ、是ハ非常ニ重要ナ、軍需關係ニモ影響ノアル礦物デアリマシテ、是ガ増産擴張ヲ促進スルコトハ、獨リ國內ノ資源ヲ之ニ依ツテ更ニ培養シテ行クノミナラズ、國防ノ上ニモ、更ニ輸出ヲ増進セシメテ、國際貸借ノ上ニモ重要ナル役割ヲ持ツノデゴザイマス、隨テ日本ガ火山國ノ關係上各方面ニ硫黄ガアリマスガ、老齡期ニナツタリ、含有量ガ相當低品位アル爲ニ、今後は等ノ開發ニハ相當ナ資金ヲ要スルコトハ御承知ノ通りデアリマシテ、サウ云フ爲カラ致シマシテモ、ヤハリ斯ウ云フ帝國鑛業開發會社ノヤウナ、其ノ使命ヲ達成セラルル會社ノ要項ノ一ツトシテ、斯ウ云フモノヲ含マセルノガ宜シイト存ズルノデアリマス、只今課長サンカラ、是ハ含シ

デ居ルト云フ明快ナ御答辯デアリマシタカラ、重ネテハ申シマセヌ、先程資金關係ヲ御問致シマシタノモ、一億八千萬圓デ他ノ礦物ヲ利用シテ足ラナイカラ、第二義的ニ考ヘラレル硫黄ヲ除ケラレルノデハナイカト云フ懸念ガ——只今一億八千萬圓ノ資金デ、金、銅其ノ他ノモノハ有力ナ會社、所謂大資本家デ賄ハレルトスルナラバ、錫「アルミニウム」或ハ亞鉛其ノ他ノモノハ、斯ウ云フ開發會社ニ依ツテ相當助成ヲサレルト、斯ウ云フ關係ヲ思ヒマシタカラ、重ネテ御尋致シタノデアリマス、是デ明瞭ニ相成ツタノデアリマス、更ニ續イテ第二問ヲ致シタイノハ、御承知ノ通り重要礦物増産法、或ハ今回提案サレマシタ此ノ法案ノ實施ノ完全ヲ期スル上ニ於キマシテハ、厚生省、農林省ト圓滿ナ提携ヲシナケレバ、増産ノ目的ガ達成セラレナイト思ヒマスガ如何デアリマスカ、例ヘバ國立公園ニ一條ノ「ケーブル」線ヲ架設致シマスニ致シマシテモ、是ハ厚生省ノ國立公園尊重ノ立場ヲ云セラレマシテ、此ノ事業ニ付テノ開發ガ出來ナイノデアリマス、森林ヲ伐採シ、或ハ其ノ附近ニ一事務所ヲ建設スルニモ、農林省ノ完全ナ了解ヲ得ナケレバ、事業ノ促進ガ出來得ラレナイノデアリマス、斯ウ云フ

立場カラ此ノ重要礦物増産法、或ハ帝國鑛業開發會社ガ、完全ニ其ノ所期ノ目的ヲ達成スル爲ニ、是等ノ關係ヲ圓滿ニ遂行スル爲ニハ、特ニ商工省ノ努力ト、之ニ要スル關聯事項ガ解決サレナケレバナラヌト思ヒマスガ、其ノ點ニ付テ遺憾ナキ方策ガアリマセウカ

○山本政府委員 只今本法ノ施行ニ付キマシテ、農林省或ハ厚生省ト十分連絡ヲ付ケルベキ必要ガアルト云フ御質問ガアリマシタ、全然御同感デアリマス、本法ノミナラズ、鑛業關係ノ法規總テニ付キマシテ、厚生省或ハ農林省ト十分ナル連絡ナクシテハ、其ノ完全ナル成果ヲ期シ得ラレナイノデアリマシテ、厚生省殊ニ國立公園ノ關係デ只今御話ガアリマシタガ、此ノ國立公園ノ問題ニ付キマシテハ、厚生省ノ當局ト十分連絡ヲ付ケテ、鑛業關係ノ法規ノ效果ノ完全ニ舉ルヤウニ連絡ヲ致シテ居リマス、農林省ニ付テハ、申スマデモナク從前カラ十分ナ連絡ヲ付ケテ鑛業ノ發達ニ付テ遺憾ナキヲ期シテ居ル次第デアリマス

○卯尾田委員 亞鉛ガ軍需關係其ノ他産業振興ノ上カラ重要テコトハ申スマデモナイノデアリマス、昨今輸入ニ依ツテ辛ウジテ需給ヲ補ウテ居ルニ過ギマセヌ、企畫院等

ノ計畫ニ依リマス、昭和十六年度ニ於テハ、大體十三年度ノ七割位ハ増産計畫ガ出來、需給ニ差支ナイ程度ダト聞イテ居リマスガ、果シテサウ云フ程度ト考ヘテ宜イノデセウカ

○山本政府委員 亞鉛ニ付テ只今御質問ガアツタノデアリマスガ、此ノ會社ノ事業ト致シマシテ、休眠鑛區ノ開發或ハ低品位鑛ノ活用ト云フコトニ努メルノデアリマシテ、亞鉛ニ付テハ需給狀況ハ稍々樂觀的ナ見込ヲ、吾々ノ方デハ持ツテ居ル譯デアリマス

○卯尾田委員 ソレハ日滿支ヲ通ジテノ關係デアリマス

○山本政府委員 是ハ無論日滿支ヲ一體トシテ考ヘテノ問題デアリマス

○卯尾田委員 内地ニモ相當亞鉛鑛ガアルノデアリマス、御承知ノ通り亞鉛鑛ハ銅鑛ト共存シテ居ル關係上、從來ハ銅ニ中心ヲ置キマシタ關係カラ、亞鉛鑛ハ拋棄セラレ、隨テ純分ノ多イ亞鉛鑛石ヲ輸入スルコトニ依ツテ、亞鉛ヲ製造シテ需給ニ充テラレテ居ツタノガ、今日マデノ現況デアリマス、昨今輸入ノ關係ガ喧シクナリ、又隨テ亞鉛ノ軍需關係ノ量ノ増加スル關係カラ、自然内地ノ金鑛或ハ銅ト共存セラルル亞鉛鑛ヲ更ニ考ヘル必要ガ起ツタノデアリマス、之

ニハ從來銅ト亜鉛トハ別々ニ製鍊スル慣習
デアリ、其ノ方便利デアルト云フ立場カ
ラ、製鍊法ガサウ云フコトニナツテ居ツタ
ノデアリマス、サウ云フ立場カラ之ニハ選
鑛ナリ或ハ製鍊所ナリ、科學的研究ヲモツ
ト進メラレバ、内地ニアル亜鉛鑛ヲ有效
的ニ利用シ得ラレト思ハレノデアリマ
スガ、サウ云フ方途ニ付テ何カ御研究ガア
リマセウカ

○山本政府委員 從前ノ狀況ハ只今御話ノ
通りデアリマスルガ、此ノ會社ガ出來マス
レバ、休眠鑛區ノ開發ナリ低品位鑛ノ活用
ニ依ツテ、亞鉛ノ供給ヲ宜クショウト云フ
コトニナル譯デアリマシテ、銅、亞鉛鑛ナ
ドニ付テモ開發ヲスル、サウ云ツタ方面カ
ラモ亞鉛ヲ十分出スト云フコトデ、亞鉛ニ
付テハ他ノ非鐵金屬ニモ樂觀的ナ見込ガ立
チ得ルト思フノデアリマス

○卯尾田委員 第十一條ニ「帝國鑛業開發
株式會社ハ左ノ營業ヲ營ムモノトス」ト云
フコトデ、第四號ニ「重要鑛物ノ賣買又ハ
其ノ斡旋」、第六號ニ「重要鑛物ヲ目的トス
ル鑛業又ハ製鍊業ニ對スル資金ノ融通又ハ
投資」、斯ウ云フコトガ掲ゲラレデアリマ
ス、斯ウ云フコトヲ積極的ニヤルコトニ依
ツテ、本案ノ目的ガ達成サレノデアリマ

ス、私達ハ斯ウ云フコトヲサレノハ當然
ダト思ヒマスガ、併シ幾ラカデモ此ノ會社
ノ損失ヲ少クシ、又有效的ニヨリ以上ニ效
果ヲ擧ゲタイト云フ立場カラ考ヘル時ニ、
此ノ第四號ノ重要鑛物ノ賣買又ハ其ノ斡
旋、第六號ノ重要鑛物ヲ目的トスル鑛業又
ハ製鍊業ニ對スル資金ノ融通又ハ投資ニ付
テ、鑛山局ナリ或ハ是等ニ關係シテ居ラレ
ル直接ノ方々カラ、第二號ニアル「重要鑛
物ニ關スル鑛床ノ調査」ト云フモノヲ會社
ノミニ委託セズニ、商工省ニ於テモ彼此レ

調査スルコトガ、會社カラ見ル見方ト、商
工省ノヤウナ役人ノ立場ガ公正ニ見ル見方
ト相一致スルコトガ、ソコニ資金ノ融通、
投資或ハ賣買、斡旋ニ付テ、異論ノ起ラス
所以ダト思ヒマスガ、サウ云フコトヲ兼ネ
行フ爲ニハ、相當ノ係員ノ増加モ必要デア
リマスシ、相當ノ豫算モ要ルノデアリマセ
ウガ、サウ云フコトニ付テ將來何カ御考ガ
アルデセウカ

○山本政府委員 此ノ會社ノ行ヒマス事業
ニ付キマシテハ、商工省ニ監理官ヲ置イテ
十分監督ヲシテ、其ノ會社ノ事業ガ國策ノ
線ニ沿ウテ十分ナル成果ヲ擧ゲルヤウニ致
シタイト存ジテ居ル譯デアリマス、只今鑛床調
査ニ付テハ此ノ會社ノミニ任せズ、官廳ノ

方ニ於テモ、ヤハリ鑛床調査ニ力ヲ注グベ
キデハナイカト云フ御尋ガアツタノデアリマ
スガ、此ノ會社ノヤル事業トシマシテハ、商
工省ニ現在アリマス地質調査所ナドデヤツテ
居リマス地質ノ調査ト云ツタヤウナ、基本
的ノ調査ノ上ニ立チマシテ、「ボーリング」
ヲスルトカ、或ハ電氣探鑛ヲスルトカ云ツ
タヤウナコトヲ、此ノ會社ニ實際的ノ立場
ニ於テヤラセタイト考ヘテ居ル譯デアリマ
ス、現在一二ノ會社ガアリマシテ、ソレガ

「ボーリング」ナドヲ引受ケテ居ルノデアリ
マスガ、鑛山界ノ活況ヲ呈シタ今日ニ於テ
ハ十分需要ニ應ジ切れナイヤウナ實情ニア
ルノデアリマシテ、此ノ會社ガ「ボーリン
グ」ナドヲ引受ケテヤルコトハ、鑛業開發
上極メテ重要デアルト考ヘマシテ、此ノ會
社ニサウ云ツタヤウナコトヲヤラセタイト
思ツテ居リマス、商工省ノ地質調査所デハ、
其ノ基礎ニナル地質ノ調査ト云ツタヤウナ
コトヲヤツテ居リマス

○卯尾田委員 三十二條ニ國稅、地方稅ノ
免除ヲ規定シテアリマス、其ノ中ニ「但シ特
別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合
ハ此ノ限ニ在ラズ」トシテ、地方稅ノ課稅ヲ
特別ニ認メラレタ理由ハ如何デアリマスカ
○山本政府委員 是ハ地方公共團體ニ於キ

マシテ、財政ガ窮乏シテ居ルト云ツタヤウ
ナモノガ相當アルノデアリマシテ、サウ云
ツタ場合ニハ、政府ノ認可ヲ受ケレバ課稅
ガ出來ルト云フコトヲ明ニシタノデアリマ
ス、是ハ昨年帝國日本產金振興會社ニモ、
ヤハリ是ト同様ノ規定ヲ置イテ居リマス
○卯尾田委員 斯ウ云フ特殊ナ會社ニ對シ
テ、國稅、地方稅ヲ免除スルノハ、助長獎
勵ノ立場カラ當然デアリマス、併シ斯ウ云
フノハ特例デアリマシテ、地方ノ財政ノ見
地バカリデナク、會社自體ノ内容充實ト云
フコトモ、條件ノ一ツニシナケレバナラナ
イノデアリマシテ、會社ノ成績ガ相當擧ツ
テ内容モ充實シタ場合ニ、地方ノ實情ヲ考
慮スル、會社ノ内容ト地方ノ實情ト二ツヲ
考慮ノ上デ決定サルベキモノダト思ヒマス
ガ、單純ニ地方ノ實情ノミニ依ツテ、此ノ
特例ヲ認メラレル御意思デスカ、會社ノ内
容トモ相兼ネテ考慮サレル御意思ダト思ヒ
マスガ、其ノ點ヲ明瞭ニ伺ヒタイ

○山本政府委員 是ハ大體從前ノ特殊會社
ニサウ云フ例文ガアツタノデ、ソレヲ此ノ
會社モ踏襲シタ譯デアリマスガ、實際ノ運
用ニ當リマシテハ、兩者ノ關係ヲ睨ミ合セ
テ決メルト云フコトニスルノデアリマシテ、
隨テ政府ハサウ云フ場合ニ認可ヲシテ課稅

ヲスルト云フヤウチ風ニシタノデアリマス
○卯尾田委員 私ノ質問ハ是デ終リマス

○八角委員長 長谷君

○長谷委員 私ハ本法案ガ漸クニシテ此ノ議會ニ間ニ合フヤウニ提出サレタコトヲ衷心カラ喜ブ一人デアリマス、ソコデ此ノ會社ノ業態ニ關シマシテ、十分ナル關心ヲ持ツテ居ルガ爲ニ、御尋ヲ致シタイト思ツテ居リマス、第三章、營業、第十一條、帝國鑛業開發株式會社ハ左ノ營業ヲ營ムモノトス、此ノ營業ガ少クトモ他ノ條件ト「コンバイン」致シマシテ、相當超飛躍的ナモノデナケレバナラスト吾々ハ期待致シテ居ルモノデアリマスガ、其ノ中ノ第一號ハ十分ニ廣ク範圍ヲ取ラレテ居リマスケレドモ、此ノ第一條ノ中デ(砂鑛業ヲ含ム以下之ニ同ジ)トナツテ居リマスガ、總則第一條ノ中デ「重要鑛物(金鑛及砂金ヲ除ク)」ト記載サレテアリマス、ソレデ私達ガ今頭ニ浮ブモノハ、ソレ以外ノ「アルミニウム」「マグネシウム」石炭、鐵ト云フヤウナモノモ頭ニ浮ンデ來テ居ルノデアリマスガ、サウ云フヤウナモノノ分界ノ點ハドウ解釋シテ宜シイノカ、此ノ際明ニシテ置イテ戴キタイト思ヒマス
○山本政府委員 此ノ會社ノ目的トシマス重要鑛產物ニ付キマシテハ、先程卯尾田サ

ンカラモ御尋ガアツタノデアリマスガ、重要鑛產物増産法ニ掲ゲテアリマスル二十二種類ノ鑛物ガアルノデアリマスガ、其ノ中金ト砂金ヲ除キマシタノハ、是ハ日本產金振興會社ニ於テ取扱ハレルト考ヘテ、一應是カラ除イタノデアリマシテ、重要鑛物増産法ニ掲ゲテアル二十二種ノ鑛物ハ、今後色々情勢ノ變化ニ依ツテ、重要鑛物トシテ勅令ニ依ツテ規定サレルモノハ、大體此ノ帝國鑛業開發株式會社ノ目的トスル重要鑛物ニ入ルト考ヘルノデアリマス、今御尋ノアリマシタ鐵、石炭ハ、無論重要鑛物トシテ、此ノ會社ガ取扱ヒ得ルコトニナル譯デアリマス、唯「アルミニウム」ノ問題デゴザイマスガ、「アルミニウム」ハ従前日本ニ於キマシテ、經濟的ニ引合フ鑛石ト云フヤウナモノガ餘リアリマセヌデシタノデ、鑛業法上ノ鑛物トシテ掲ゲテ居リマセヌ、是ノ増産獎勵ト云ツタヤウナモノハ、沿革的ニ申シマス、商工省ノ鑛山局ニアラズシテ、工務局ニ於テヤツテ參ツタノデアリマシテ、今回モ別箇ノ法律ヲ以テ、輕金屬ノ増産ト云ツタヤウナコトヲ考ヘテ居ル譯デゴザイマス、此ノ「アルミニウム」ハ、此ノ會社ノ取扱フ鑛物ノ中ニ入ツテ居ラナイ譯デアリマス

○長谷委員 取扱ハルモノト然ラザルモノトノ間ニ於テ、監督側ノ立場、獎勵、助成、サウ云フコトニ萬支障ナカラシムルヤウニ御取扱ヲ願ヒタイト存ジマス、次ハ私ガ先程入ツテ來タ時ニ承リマシタコトデ、モウ既ニ濟ンデ居ツタカモ知レマセヌガ、簡單ニ御答願ヒタイノハ、此ノ第二號ノ鑛床ノ調査ハ、素晴ラシク大切ナ問題デアリマシテ、過般私ガ申上ゲマシタヤウニ、一ツノ山ニ對シテ補助セラルル所ノ金額ガ、例ヲ以テ申上ゲルト、五千圓程度ノモノヲ御出シニナルト山ノ性質ガ分ルモノナラバ、思切ツテヤハリ五千圓程度ノ探鑛獎勵ヲ御出シニナツタリ、ソレカラ又何ナリシテ行カナケレバナラナイト云フ風ナコトモ、曾テノ委員會ニ申上ゲテ置イタ筈デアリマスルガ、此ノ探鑛ハ非常ニ大切デアル、其ノ探鑛ノ前提ヲ爲ス所ノ鑛床ノ調査デスカラ、不可分ノモノト吾々ハ考ヘテ居リマス、鑛山局ニアラレル所ノ地質調査所ト云フモノト、此ノ會社トノ連繋ガ相當密接ニ行カナケレバナラヌノデハナイカト思ヒマス、當然ノコトデスガ、一ツ御答ヲ願ハナケレバナラスト思ツテ居リマス

○山本政府委員 鑛床ノ調査ガ、鑛產物増産ノ上ニ最モ基礎的ノモノデアルト云フコトニ付テハ、御同感デアリマス、鑛山局ノ地質調査所ニ於キマシテ行ヒマスル地質ノ調査、或ハ鑛床ノ調査ト云ツタヤウナモノハ、基礎的ノ調査デアリマシテ、此ノ會社ガ此ノ法律ノ第十一條ノ事業トシテ掲ゲテ居ル鑛床調査ハ其ノ基礎的ノ調査ノ上ニ立ツテ、更ニ實際的ノ方向ニ進ムモノデアリマス、實際ノヤリ方ト致シマシテハ、「ボーリング」ヲスルトカ、或ハ電氣探鑛ヲスルト云フコトヲ、鑛山局ノ地質調査所デアリマスル基礎的ノ調査ノ上ニ立ツテ、鑛物ノ發見ニ努メル、實際的ナ立場ニ立ツテ仕事ヲスルト云フコトヲ、此ノ會社デハ目論シテ居ル譯デアリマス、現在「ボーリング」ヲヤルト云フヤウナコトニ付キマシテハ、民間ニ一二ノ會社ガアリマシテ、サウ云ツタコトヲ引受ケテ居ルノデアリマスガ、鑛山界ノ活況ニ伴ツテ申込ガ非常ニ殺到致シマシテ、十分其ノ要求ニ應ジ切レナイヤウナ實情ニアリマスルノデ、斯ウ云フ國策的ノ見地ニ立ツタ會社ガ、極メテ公平ニサウ云ツタ仕事ヲ引受ケルト云フコトガ、鑛山界ニ好影響ヲ齎スモノト考ヘテ、此ノ十一條ノ中ニ掲ゲタ次第デアリマス
○長谷委員 今ノ御答ニナリマシタ點ニ關シマシテ、此ノ際好イ機會デスカラ、十分

ニ御努力ヲ願フト云フ意味デ、更ニ深く御尋致シタイノハ、「ボーリング」ノ問題デスガ、此ノ「ボーリング」ハ勿論探油關係、是ハ學說ニモ依リマセウガ、岩盤ヲドノ程度掘込シタラバ、ドウ云フ湧出ノ量ガアルカト云フヤウナコトハ、議論ト致シマシテモ、外國ノ其ノ例ニ依ツテ見マス、

「ボーリング」ヲヨリ以下ヘ降シタガ爲ニ、非常ナル湧出量ヲ得タト云フヤウナ實例ガアルノデアリマシテ、現在日本ノ東北方面ニ於テモ、其ノ要求ガアルト云フコトヲ吾々ハ聞イテ居リマスシ、他ノ委員會ニモ其ノ説ヲ爲シテ居ルコトヲ耳ニシテ居リマスガ、其ノ石油方面ノ「ボーリング」ニ對シテモ、十分ナル御援助ヲ、此ノ會社ヲシテ爲サシメルト云フヤウナ意圖ガアルカドウカト云フコトデス

○山本政府委員 石油ノ關係ニ付キマシテハ、燃料局ニ於テ別箇ノ助成方策ヲ考ヘラレテ居ルノデアリマシテ、此ノ會社デハ石油關係ニ付キマシテハ、現在ノ所助成ヲスルコトヲ考ヘテ居リマセヌ、石油ニ付キマシテハ燃料局ニ於テ別箇ノ助成方策、別箇ノ會社ヲ考ヘラレテ居ルヤウデアリマスルガ、其ノ會社ニ付テハ尙ホ研究中ノヤウデアリマス

○長谷委員 サウスルト此ノ鑛業ニ含ム重要鑛物ノ中カラ、石油ハ除カレルト云フ形ニナルノデスカ

○山本政府委員 一應會社ノ事業計畫カラハ石油ト云フモノヲ除イテ居ル、ソレハ燃料局ノ關係ニ於テ、別箇ノ具體策ヲ考究ニナツテ居ルノデアリマス

○長谷委員 如何ナル業態ニ於キマシテモ、統一セラレタルモノハ、其ノ業績ガ上ルト云フコトハ當然デアリマスルガ、又稀ニ例外ヲ設ケラレル場合ガ、ヨリ以上ノ效果ヲ奏スル云トフコトモ、吾々ハ納得出來ルノデスガ、斯ウ云フ鑛業開發株式會社ガ出來タノデスカラ、或ル場合ニ於テハ、常ニ一切ノ鑛物ニ對スル所ノ地質調査ノ必要モアレバ、又偶然ニ石油モ、或ハ「アルミニウム」モ、或ハ「マグネシウム」モ、當然其ノ調査、探鑛、測量ノ間ニ、浮ンデ居ルモノガ澤山アルダラウト思ツテ居リマスガ、政府ト致シマシテハ、寧ロ斯ウ云フ風ナ獨立ノ會社ガ出來タノヲ幸ヒト致シマシテ、サウ云フ燃料局ノ方ノ部門ニ屬スル重要ナル測量、探油マデノ間、「アルミニウム」關係ノ方ニ於テモ、鑛石ト同一ニ取扱ハレルト云フ風ニ、一本立ノ鑛業統制對策ヲ執ラレルト云フ風ナコトヲ、將來希望サレテ居

ルノカドウカラ、此ノ際一ツ承ツテ置キタイと思ヒマス

○小金政府委員 鑛業ニ對シテ各鑛物ニ互ル綜合政策ヲ執ル考ハナイカ、洵ニ重點ヲ衝カレタ御質問ト存ジマス、吾々共其ノ見地カラ研究致シマシタガ、所ガ石油ハ御承知ノ通り鑛物デハゴザイマスケレドモ、ア云フ液體狀態ヲ成シテ地下ニ埋沒サレテ居リマシテ、之ヲ採取致シマスノニモ、他ノ固形鑛物ト自ラ其ノ趣ヲ異ニ致シテ居

リマス、唯最近石油ニ付キマシテモ、含油量ニ對スル採取率ヲ非常ニ上ゲル、所謂坑道掘ト云フヤウナコトモ考ヘラレテ、既ニ或ル外國ニ於テハ實施モサレテ居リマス、色々今長谷サンノ仰セニナツタヤウナ意味ニ於テ、他ノ鑛物ト近似シテ來ルヤウナ採掘方法ガ執リ得ルコトニ相成ルカトモ存ジマス、併シナガラ今ノ所商工省或ハ關係方面——政府ト致シマシテハ、液體燃料、ソレカラ「アルミニウム」「マグネシウム」ト云フヤウナ物ト、重要鑛物増産法ニ掲ゲテ居リマス所ノ、大體固形鑛物ヲ中心トスルヤウナ物トハ、別箇ノ政策ニ依ツテ、ソレゾレノ立場カラ深く掘下ゲテ研究ヲシ、サウシテ開發ヲ増進サセテ行カウ、斯ウ云フ風ナ見解ヲ取ツテ來テ居リマス、殊ニ「アル

ミニウム」「マグネシウム」ノ如キモノハ、今ノ所ハ原料タル鑛石或ハ粘土ヲ採取スル、或ハ苦汁ヲ採取スルト云フヤウナコトヨリモ、寧ロ之ヲ電解シ、或ハ之ヲ製鍊スルノニ、非常ニ電氣化學工業ト云フヤウナ方面ニ重キヲ置キマスノデ、今日ノ所デハ是等モ亦別箇ノ政策トシテ考ヘテ居リマス、併シナガラ將來長谷サンノ御言葉ニアリマシタヤウニ、鑛物全般ニ互ツテ綜合的ナ鑛

山業政策ト云ヒマスカ、サウ云フモノヲ檢討シテ見ル必要ガアルト存ジマス、今ノ所デハ各方面ニ向ツテ集中ノ努力スルト云フ意味カラ、固形鑛物ニ付キマシテモ、金ニ付テハ日本產金振興株式會社ト云フヤウナモノデ一路邁進スル、重要鑛物ニ付テハ、本會社ノ御協賛ガ得ラレマシタラバ、之ヲ一ツノ具體方策トシテ、之ニ依ツテ一路邁進スル、石油ニ付テハ石油資源開發ヲ中心トシテ、又別箇ニ燃料局ニ於テ液體燃料政策ノ立場カラ、一ツノ具體案ヲ以テ進ンデ行ク、「アルミニウム」「マグネシウム」等ノ輕金屬ニ付テモ、今輕金屬製造事業法案ト云フモノヲ御審議ヲ願ツテ居ル旨デアリマスガ、斯ウ云フヤウナモノニ依ツテ一路邁進スル、マア斯ウ云フ風ナ關係ヲ執ツテ居リマス、恐ラク斯ウ云フモノニ付テ、

更ニ綜合的ナ立場カラ政策ヲ再檢討スル必要ガアルノデハナカラウカト云フ御意見ニ付キマシテハ、私共洵ニ御尤ダト存ジマス、其ノ一例ガ、「アルミニウム」ノ如キハ海外資源ニ依存スル政策デ、極メテ不徹底デハナイカト云フヤウナ御議論モ、是等ノ點ニ關聯シテ出ルノデハナイカト思ヒマス、一ツ御意見ニ付キマシテハ十分研究致シタイト存ジマス

○長谷委員 出來ルダケ技術ト勞力ト資材ト云フ風ナモノヲ節約シテ、一本建ノ對策ヲ執ラレタ方ガ宜イト云フ意見ヲ申上ゲテ次ニ移リマス、第三號ノ「技術ニ關スル指導」ト云フ、此ノ範圍ヲ此ノ際十分話シテ貰ヒタイト云フ意味デ御尋シタイノデスガ、ソレハ私ガ最初カラ申シテ來テ居ルヤウニ、今日若シ更ニ掘進ヲシタモノ、或ハ過去ニ捨テタ所ノモノ、地方ニ散在スル貧鑛ト云フ風ナモノヲ處理致シマシテ、地方的ニ見タ製鍊方法ヲ使ウテ行カレルト云フ場合モアリマセウガ、モウ一ツハ地方ニ分散シテ居ルモノニ相當ノ刺戟ヲ與ヘテ、其ノ鑛石ヲ現在アル所ノ製鍊所ニ運バセルト云フ風ナ自然的ナ歩ミ方ヲ、特ニ御考慮ニナツテ御答辯デ承ツテ居リマスガ、端的ニ申上ゲ

マスルト、是ハ私言ウテ洵ニ氣ノ毒ダト思フノデスガ、持ツテ參リマシタ所ノ鑛石ノ品位ヲ落ス對策ヲ、其ノ製鍊所ノ人達ガヤルト云フ風ナ噂ヲ聞イテ居リマスノデ、此ノ技術ノ指導ニ關聯致シマシテ、サウ云フ風ナ惡例等ヲ此ノ際除去シテ貰ハナケレバナラヌト思ヒマスノデ、指導ノ範圍ト云フ

風ナモノヲ、寧ロ指導兼監督ト云フ風ナ直接ノ立場ニ置イテ——今日監督員ノ人員等ガ極メテ缺乏致シテ居ルト推察致シテ居リマスケレドモ、地方ノ貧鑛又ハ貧鑛ニ近イモノヲ持運シテ來タリ、ソレヲ處理スル所ノ各會社ガ不正ヲシナイヤウニ、特ニ銅鑛其ノ他ノ特殊ナ金屬ニ對シマシテハ、僅ナモノヲ集メナケレバ日本ノ生産力擴充ト云フ問題ニナラヌノデアリマスカラ、其ノ持來ツタモノガ、自分ノ持山ノ品位ヲ叩落サレルト云フ風ナコトハ、何ヨリモ苦痛ナノデスカラ、其ノ苦痛ヲ除去スルヤウニ、技術指導ノ導ノ外ニ十分密接ナル監督ヲ、サウ云フ持山ニ對シテ貰ハナケレバナラナイト思ツテ居リマス、ソレカラモウ一ツハ、此ノ次ニ設立セラレマス此ノ會社ノ製鍊所ニ於キマシテモ同ジク相當サウ云フ貧鑛ガ、自然ニ集マル所ノ犧牲ヲ甘ジテ貰ハナケレバナラヌノデヤナイカ、斯ウ思ツテ居リ

マスガ、是ハズット下ノ程度ノコトノ質問デスガ、現實ニ大切ダト思ヒマスカラ御尋致シマス

○小金政府委員 重要鑛物ヲ目的トスル鑛業ニ對スル技術ニ關スル指導ニ付キマシテハ、御説ノ通り非常ニ重要デゴザイマスカラ、十分ノ注意ヲ致シマス、特ニ技術指導ヲ必要トスルヤウナ山ニ付キマシテハ、サンプルノ採方トカ、或ハ其ノ賣鑛ニ際シテ

十分ナル注意ヲ加ヘルヤウニ、指導旁、監督ヲ致ス豫定デアリマス、此ノ會社ノ事業ノ範圍内ニ於キマシテモ、指導ト同時ニ公正ナル立場ヲ執ツテ、鑛石ノ賣買ニ處スルト云フ風コトヲ致サセタイト存ジマス、即チ自ラ「サンプル」ヲ採リマス、良イ所バカリ採ツテ持ツテ行ク、隨テ或ル數量ニ當ミマスト、ソレヲ平均スルト「サンプル」ノ品位ガ上リ過ギテ、全體ノ品位ヨリモ非常ニ良クナツテ居ルト云フヤウナコトヲ、知ラナイト云フコトニ基ク缺陷等モアルヤウデアリマスカラ、其ノ點ハ其ノ點トシテ十分指導致シ、又鑛石ヲ買フ方ノ側ニ對シマシテハ、政府ガ十分ナル監督ヲ致スト同時ニ、出來マスナラバ此ノ會社ガ買鑛ヲ爲シ、製鍊所ノ分析其ノ他資料ノ採取ニ關スル設備等ヲ買取リマシテ、サウシテ此ノ半官半民ノ會社

ガ公正ニ其ノ資料ノ取扱及ビ分析等ヲ行ツタナラバ、極メテ双方ニ對シテ公正ナル立場ヲ執ツテ、問題ノ解決ニモ資シ易ク、延イテハ中小鑛山ノ開發ニモ資スルコトガ出來ルト考ヘテ居ル次第デアリマス

○長谷委員 今局長ノ御答ニナリマシタヤウニ、須ク危險性ノアルモノハ、本會社ヲシテソレニ當ラシメテ戴キタイト、斯ウ希望致シテ置キマス、第四號ノ點デアリマスルガ、斯ウ云フ風ナ事例ノ場合ニ於テハ、本會社ガ之ヲ取扱フカドウカト云フコトヲ御尋致シマス、札幌市ニ中心ヲ置キマシテ、札幌市ノ附近ニ於キマシテハ、相當ノ鑛物ノ埋藏量ガアルガ、ソレガ分散シテ居ルガ爲ニ全然役ニ立ツテ居ラナカッタ、其ノ鑛石ヲ札幌市ニ集メテ、之ヲ集約シタモノヲ何レカニ運び出ス、又ハソコデ第一階梯ニ屬スル選鑛ダケヲヤツテ、選鑛ノ原料ヲ製鍊所ニ持運ブ、斯ウ云フ風ナ場合ハ、其ノ札幌市ニ鑛石ヲ集メルト云フ風ナコト、又ハソコニ第一次ノ選鑛作業、之ヲ運搬スルト云フ風ナモノハ、此ノ會社ガ何處マデ關係ナサルコトニナリマセウカ

○小金政府委員 或ル都市トカ或ル地域トカヲ中心ニシテ、其ノ附近ニ小サイ鑛山ナラバ比較的澤山アルガ、一ツノ鑛山トシテ

ハ鑛量ガ十分繼ヲナイト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、其處ニ此ノ會社ガ一種ノ賣鑛斡旋所ト云フヤウナモノヲ設ケテ、鑛物ノ蒐集竝ニ其ノ賣買ニ便ナラシメルト云フヤウナコトハ考ヘテ居リマス、ソレハ賣買又ハ其ノ斡旋シテ施設スル場合モゴザイマス、ソレカラ御尋ノ後段ノ第一次選鑛ダラウト思ヒマスガ、要スルニ第一次ノ選鑛ヲ行フヤウナコトモスルカト云フ點ニ付キマシテハ、此ノ會社ハ「重要鑛物ヲ目的トスル鑛業」其ノ第一ノ方デ、鑛業ノ中ニ選鑛事業ガ入リマスノデ、選鑛場ヲ建テル計畫ヲモ持タシテゴザイマスカラ、其ノ方デ然ルベキ地域ヲ選ンデ、何箇所カ計畫ヲ追ウテ選鑛所ヲ建テシムル豫定デゴザイマス、ソレデ今長谷サシノ仰シヤツタヤウナ第一次的ナ選鑛デモ行ツテ、品位ヲ高メテ賣買シタラ、極メテ製鍊業者ニモ都合ガ好ク、又中小ノ鑛山等モ大イニ利スル所ガアルダラウト考ヘテ居リマス

○長谷委員 私ガ希望シテ居ツタ所ハ、此ノ四號ノ活躍デアリマシテ、十分四號ヲ「スミス」ニ活躍シテ戴クト云フト、自ラ一定ノ地區ニ日ノ目ヲ見ナカッタ鑛物ガ集結スルト云フ實情ヲ呈スルダラウト思ツテ居リマス、特ニ此ノ點ニ御努力ヲ願ヒタイト思

ツテ居リマス、此處デ一ツ氣付キマシタコトデ御尋ヲシ、又參與官ニ御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマスノハ、是ハ非常ニ力ヲ持ツテ居ル陸海軍ノ若手ノ將校デモ參ツテ居ルノデスガ、何時モ註文ニ來ル所ノ人達ハ、官廳ノ古手ノ偉イ方々ガ來ルノデス、何々會社ノ重役ガ元ノ古手デアッタ、ソレニハ逆モ手ヲ焼イテ居リマス、斯ウ云フ實情ハ自ラ商工省ニモアレラダラウト思フ、何ト言ウテモ人情ト致シマシテ參ルノデス、ソコデ商工省ガ此ノ鑛業開發會社ノ範疇ニ屬スル一切ノ土地ノ指定、製鍊所ノ設定、ソレカラ斡旋所ノ設定、又金錢ノ貸出補助ト云フヤウナコトニ關聯致シマシテ、錚々タル若イ課長級ノ方々ノ所ヘ、古イ先輩デアルトカ、或ハ代議士ノ元ノ古イ方々トカ云フヤウナ人ガ來ラレテ、人情的ニヤラレル場合ハ、非常ニ立場上困ラレテ居ルヤウナ狀態ガアリマスカラ、サウ云フ時ニハ須ク公正ナ觀念ノ下ニ、サウ云フ立場ノ人達ノ來ルト云フコトヲ、訓示カ何カノ方法ニ依ツテ、事前ニ之ヲ防止スルト云フヤウナ對策ヲ執ツテ貰ヒタイ、是ハ鑛業開發會社ノ圓滿ナル誕生ト發達ヲ希望スルカラ御尋致ス次第デアリマスガ、簡單ニ御意見ヲ承ツテ置キタイト思ヒマス

○澤田政府委員 長谷君ノ仰セラレタコトハ御尤デ、其ノ趣旨ハ全然御同感デアリマス、今帝國鑛業開發株式會社ガ誕生スルニ當リマシテ、其ノ行方所ノ或ハ製鍊所デアルトカ、或ハ選鑛所デアルトカ、有ユル設備ノ場所ヲ選ブ上ニ於キマシテ、或ハ又鑛區ヲ買收スル意味ニ於キマシテ、誕生ノ初カラ總テ情實デアルトカ、サウ云フモノヲ加ヘテハ、全然相成ラヌト考ヘマス、殊ニ鑛業開發會社ノ如キハ最モムヅカシイ問題デアリ、而モ左様ナ經營ノ意味ニ於ケル經濟觀念ヲ離レテ、情實ヲ加ヘテヤツテ、ソレガ爲ニ會社ノ所期ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナカッタト云フニ至ツテハ、實ニ是ハ重大ナ會社ノ創立ノ趣旨ニモ反スル次第デアリマスカラ、此ノ點ニ對シマシテハ、十分ニ御意思ノアル所ヲ尊重シ、何等カノ方式ニ依ツテ左様ニ致シタイト考ヘマス

○長谷委員 是非參與官カラノ御答辯通り、ソレヲ嚴重ニ實行シテ戴キタイト思ツテ居リマス、私達ハ產金會社ノ業態ヲ此處デ申上ゲル譯デハアリマセスガ、アノ肩替リシタ中デ相當莫大ナル金錢ヲ、名義上借入ノ形ニ依ツテ手ニ入レテ居ル人達ガアル、而モ其ノ人ガ遊ンデ居ルト云フ實例ヲ知ツテ居リマス、ダカラ此ノ鑛業開發會社ニ關スル限り、サウ云フ不愉快ナル所ノ實例ヲ吾々ハ貼シタクナイト考ヘテ居ル者デアリマス、ソレカラ第五號ノ問題デスガ、今日マデ一切ノ事業ノ中心ヲ成シテ居ルモノハ勿論人デアリマセウ、又鑛山ノ特質モアリマセウガ、同ジク大切ナル問題ハ機械器具ダラウト考ヘテ居リマス、此ノ機械器具ノ發明改良ト云フヤウナ問題ニ付キマシテ、少シク當局ノ方ニ於テ不十分ナル點ガアツタヤウニ、吾々ノ推測デハ感ゼラレテナリマセス、是カラ目的トナル鑛物ハ非常ナ特殊ナ、而モ量ノ少イ、或ハアツテモ貧鑛デアアルモノヲ處理シテ行カナケレバナラスモノデスカラ、其ノ使用工具ニ付キマシテハ自ラ十分ナル研究ト、諸外國トノ事例トヲ徵シテ、此ノ方面ノ研究ト云フコトニ付テ、十分御努力ト投資ヲシテ戴カナケレバナラスト思ツテ居リマス、ソレデ過般私ガ產金ノ場合ニ申上ゲタ所ノ一ツノ機械ハ、アレハ同ジク銅ノ貧鑛ニモ用ヒラレルノデアリマス、他ノ重イ鑛物ニモ同ジク用ヒラレマスガ、要スルニ選縮用トシテハ簡便ニシテ容易ナモノト私達ハ考ヘテ申上ゲテ居ツタノデアリマシテ、敢テ產金ノ場合ニ使ハレル機械ノミデハナイノデアリマス、是ハ唯一ツノ事例デアリマスガ、同ジク斯

ウ云フ方面ニ於ケル刺戟ヲ御與ヘニナリマスト、其ノ方面ノ研究家モ、又其ノ方面ノ技術家モ出テ來ルドラウト考ヘテ居リマスカラ、商工當局ガ指導シテ、此ノ會社ヲシテヤラシメラレルコトモ、非常ニ大切カト考ヘテ居リマス、特ニ此ノ點ニ對シテ御努力ヲ願フ具體の方策デモアリマシタナラバ、承ツテ置キタイト思ヒマス

○小金政府委員 重要礦物ヲ目的トスル鑛業或ハ製鍊業ノ爲ニ必要ナル器具機械、材料設備ト云フヤウナモノニ付キマシテ、更ニ一層政府トシテ意ヲ用フルト云フコトハ、全ク同感デアリマシテ、其ノ爲ニ良イ機械ガアレバ、役所トシテハ直グニ當該係ノ技術者ヲ派遣致シマシテ、之ヲ能ク調ベテ、眞ニ能率デアリ、國ノ爲ニナルト云フヤウナモノデアラナラバ、之ヲ推薦スルヤウナ方法ヲ講ジタイト思ツテ居リマス、尙ホ是等ノ機械器具等ノ更ニ又基本的ナ材料トナル鐵鑛、或ハ其ノ他ノ重要ナル基礎資材ノ配給等ニ付キマシテモ、具體的ニ今心配シツツアルノデアリマス、サウシテ品不足ノ所ヘハ成ベク早く配給スルトカ、必要缺クベカラザルモノノ方ニハ、成ベク不自由ヲ掛ケナイヤウニスルト云フヤウナ、基本的ナ努力モ實際致シテ居ル次第デゴザイマス

○長谷委員 其ノ點ハ何レ總括的ニ後程御尋スル場合ニ讓ツテ、次ノ第六號ニ入リマスカ、山ハ持つテ居ルガ金ハナイ、斯様ナ者ガ山ヲ持テ餘シテ居ルヤウナ實情ガ多イノデアリマス、産金振興會社ノ時ニモ左様ナ事例ガアツタト考ヘテ居リマスガ、此ノ會社ハ左様ナ場合ニ於テ擔保ヲ要求スルヤウナ、對人保證ヲ要求スルヤウナコトガナカラウカト考ヘテ居リマスガ、私ノ間ハンカスル所ハ、實力ノ無イ者ニ資金ノ融通投資ヲシテヤツテ戴キタイノデアリマシテ、勿論ソレニハ嚴重ナル査定ヲシテ貰ハナケレバ困リマスガ、此ノ限界ト云フモノガ難カシイ、ソレハ産金ノ場合ト同ジドラウト思ツテ居リマス、願クハ餘リ事務的ニ自分ノ立場ヲ護ラレンガ爲ニ、失敗ヲ惧レテ成功ヲ懸念セラレルガ爲ニ、國ノ產物デアル所ノモノヲ出ス率ガ少クナルヤウナコトノナイヤウニ、十分積極的ニヤツテ貰フヤウニ、金錢的ニモ其ノ行動ニ於テモ努力ヲ願ハヌト、又何ニモナラヌコトニナルト思ヒマス、當然ノ話デアリマスケレドモ、此ノ點特ニ此ノ際政府ノ意ノアル所ヲ御言明願ヒマシタナラバ、開發會社進行途上ニ於ケル一ツノ楔トナルカトモ考ヘテ居リマスカラ、御言明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○小金政府委員 此ノ鑛山ニ對スル資金ノ融通或ハ投資ト云フヤウナコトハ、今長谷サンノ御述ニナリマシタ通り、中々ムヅカシイノデアリマス、嚴ニ失スレバ金ハ出テ行カナイ、隨テ特ニ中小ノ鑛山ノ如キモノハ開發出來ナイ、併シナガラ是亦緩ニ流ルレバ其ノ收拾スル所ヲ知ラナクナリマス、而シテ如何ニ政府ガ補償シ、國家ガ其ノ損失ヲ填補スルコトト致シマシテモ、其ノ弊害ヤ到底抑止スル所ヲ知ラナイヤウナ狀態ニナル虞ガゴザイマス、サウ云フ狀態デアリマスカラ、洵ニムヅカシイノデアリマス、ソコデ實力ガ無クシテ山ノ開發ガ出來ナイヤウナモノニ付キマシテハ、先ヅ鑛業權者ノ計畫スル所ヲ能ク檢討スルコトハ勿論デアリマスガ、此ノ會社トシテモ、相當ナ思切ツタ貸付ヲサセルヤウニ指導スル積リデアリマス、ソレニハ幸ニ鑛山監督局ノ職員等モ、不十分デアリマスガ從前ニ比ベテ相當充實シテ參リマシタカラ、ソレ等ノ技師ヲ動員シテ調査ヲスル、マア其ノ程度ハハツキリ申上ゲラレマセヌガ、開發ヲセシメル方ガ宜シイドラウト云フヤウナ意見ヲ立テル山ニ對シテハ、思切ツテ融通セシメルト云フ方針ヲ執リタイト思ツテ居リマス、ソレニハ此ノ帝國鑛業開發株式會社ニ勤メ

ル人間モ、元ヲ質セバ一個ノ勤メ人ニナリマスノデ、ソレ等ノ責任其ノ他色々内部關係ガ、會社ノサウ云フ國策線ニ沿ウタ事務ヲ思切ツテヤルコトヲ阻止スルヤウナ懸念等ガアリマス場合ニ於キマシテハ、産金振興會社ニ對スル同様、其ノ地位等ニ付キマシテモ考ヘテ、十分ノ活躍ガ出來ルヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス

○長谷委員 御尤ナ御意見ヲ承リマシタ、要ハ立場ヲ打診致シマスと洵ニ弱者デアリマス、其ノ人達ノ機能ヲ發揮セシメル場合ニ於テハ、失敗ガ之ニ伴フドラウト考ヘマシテ、私ハ御尋ヲ申上ゲタノデアリマスガ、ドウカ十分機能ヲ發揮スルコトヲ前提ト致シマシテ——要ハ人デアリマス、正シク行動シタ場合ニ於テハ、叱ラスヤウニシテ貰ヒタイト考ヘマス、ソコデ同條ノ第二項ノ最後ノ所ニ、本會社ノ目的達成上必要ナル諸事業ヲ營ムコトガ出來ルト云フコトニナツテ居リマスガ、私ハ何時モ口癖ノヤウニ申シテ居ルノハ、事業ガ忙シクナルト——有ユル重工業工場デモ同ジデスガ、動モスルト研究ト云フモノヲ忘レテ居リマス、我國ノ鑛業ノ發展ハ決シテ多産的デアツテハナラナイと思フ、其ノ品位ガ立派デアツテ合理的デナケレバナラヌと思フノデス、デ

アルカラ、我國ノ鑛業ガ完全ナル發達ヲ爲
スガ爲ニハ、日常怠ラナイ所ノ研究ガ必要
ダラウト思ヒマス、私ハ現在ノ鑛山監督局ニ
於ケル所ノ立場ヲモ能ク承知致シテ居リマ
スガ、政府ノ機關トシテ動トモスルト、一
定ノ範疇ノ外ニ出ル譯ニハ行カナイノデア
リマシテ、思切ツタ研究ヲスルガ爲ニハ、會
社ノ設備ニ於テナサレルコトガ一番宜カ
ラウト思ツテ居リマス、ソコデ過般來商工
大臣其ノ他ノ政府ノ方々カラノ意見ヲ綜合
致シマシタ結論ガ、鑛業方面ニ對スル國策
樹立ト云フ點ニ付テ、未ダ十分ナラヌモノ
ガアリマスカラ、鑛業對策ヲ根本的ニ立テ
ルト云フ前提ノ下ニ、此ノ會社ニ附設致シ
マシタ所ノ一ツノ審議機關、試驗機關、研究
機關ヲ設ケラレテ、此ノ會社ノ發展途上ヲ
モ顧ミズ、此ノ方面ニ多少ノ犠牲ヲ向ケテ
貫ツタナラバ、我國ノ指導方針ヲ持ツ此ノ
會社ノ將來ト云フモノニ期待スルコトガ出
來ルノデハナイカト考ヘテ居リマスガ、御
意見ヲ承ツテ置キタイト思ツテ居リマス

得ナイヤウナコトモヤツテ見タコトガ相當
ゴザイマス、此ノ會社ニ於テサウ云フコト
ヲ具體的ニ、今何々ヲヤラセルト云フコト
ハ考ヘテ居リマセヌケレドモ、只今ノ御意
見ハ立派ニ、本法案ノ審議中重大ナ一項ト
シテ記録ニ留メテ御希望ニ副フコトガ、我
國鑛山業ノ發達ノ爲ニモナルト心得マス
ノデ、出來ルダケノコトヲ致シタイト存ジ
マス、日本デハ鑛山業ト云フモノハ隨分古
クカラアリマスガ、サウ大キナ鑛山ニ關ス
ル研究機關ニ缺ケテハ居ナイカト、私モ實
ハ考ヘテ居リマス、是ハ中々急激ニ設備ヲ
スルコトモ出來ズ、人モナイノデアリマス、
出來得ル限りノ範圍内ニ於テ、或ハ石炭坑
爆發豫防ノ調査トカ、燃料ノ研究トカ云フ
ヤウナ方面カラ、今入ツテ居ルダケデアリ
マシテ、鑛山用ノ機械其ノ他ニ付テ、マダ
十分ナル研究機關ガナイノヲ遺憾ト致シテ
居リマス、例ヘバ獨逸ノ「ミュンヘン」ノ鑛
山ニ關スル博物館ト云フヤウナモノヲ見マ
シテモ、實ニ殘念ニ思ツテ居ル次第デアリ
マス、御趣旨ハ吾々モ同感デアリマスノデ、
能ク此ノ會社ニ付テモ考ヘルコトニ致シマ
ス

第二項、第三項ニ互リマシテ補償規定ノ記
載ガアリマスガ、是ハ文ノ作成ハ丁度産金
會社法中改正法律案ノ文ト同一ニナツテ居
リマスカラ、私ハ特ニ私個人トシテ御説明
ヲ求メル必要ハナカラウカト存ジテ居リマ
スガ、要スルニ此ノ法案ハ、半分ハ私ノ投
資ニ依ツテナサレテ居ルモノデアリマス、
半分ハ政府ノ出資ニナツテ居リマスルガ、
民間會社デアルト云フコトハ爭ヘナイノデ
アリマシテ、斯様ナ場合ニ於キマシテハ、
補償ト云フモノハ私人ニ對シマシテハ完全
ナル實體的ノ補償ト法律ノ保護ト、此ノ二
ツガ相俟ツテナサレテ居ルト云フコトハ、
既往ノ法律作成上ノ當然ノコトデアリマス、
ソコデ此ノ際特ニ此ノ法案ニ關スル限り、
政府ノ一應ノ説明ヲ承ツテ置キマシテ、此
ノ會社ガ實質上且ツ法律上政府ノ命令ニ因
ル所ノ損失ト云フモノヲ、完全ニ補ヒ得ル
條件ノ下ニアルト云フコトヲ、明ニシテ置
イテ戴キタイト思ツテ居リマス、ソレカラ
最後ニ、此ノ會社ガ特ニ其ノ條文ノ配列カ
ラ事業ノ内容ニ於テ、相當新鮮味ノアル所
ノ作り方ニナツテ居ルト云フコトニ對シマ
シテ、非常ナ喜ビヲ持ツテ居リマスガ、其
ノ實情ガ理想通りニ現ハレルコトヲ特ニ希
望致シマシテ私ノ質問ヲ終リマス

○小金政府委員 第二十四條ニ付テノ御尋
デアリマスガ、是ハ第二十四條全體ヲ通ジ
マシテ御答申上ゲマス、大體政府ガ重要鑛
物ノ増産ヲ圖ル爲ニ必要ナル命令ヲ出シマ
ス場合ニ於キマシテハ、其ノ命令ヲ出ス前
ニ、豫メ豫算其ノ他ノ關係ヲ考慮シテ置ク
コトガ必要ト存ジマス、豫算ノ金額ヲ超ニ
テ損失ヲ生ジタル場合ニ、此ノ會社ガ其ノ
損失ノ超過シタ部分ヲ負擔スルコトニナル
ノデハナイカト云フ場合ガゴザイマス、所
ガソレハ豫算ハ損失ノ起リ得ベキ一切ノ場
合、且其ノ可能ナル最高額ヲ豫想致シマシ
テ、之ヲ定メル方針デアリマスカラ、サウ
云フ今申上ゲルヤウナコトガナイヤウニ命
令モスルト云フコトニナルノデアリマス、
尙ホ是ハ附加的ノモノデアリマスガ、會社
ノ利益一般ニ對シマシテハ、補給制度モア
リマスノデ、會社自體ノ負擔トナルガ如キ
場合ハ起リ得ナイヤウニ仕組ンデアルノデ
アリマス、ソレカラサウ云フコトハナイト
申シマシテモ、法律論トシテハ一應成立ツノ
デアリマス、人間ガ損失ノ起リ得ベキ一切ノ場
合トカ、其ノ損失ノ最大限度ヲ一應豫想シタ
ト云ツテモ、ソレ以上ノ損失ガ起リ得ルコ
トガアルデハナイカト云フ法律論ハ、勿論
成立致シマスノデ、其ノ點ニ付テモ考慮致

シマシタ、政府ト政府ヨリ當時監督ヲ受ケマスル本會社ノ如キ特殊會社トノ間ノ關係

デアリマスカラ、損失決定ノ基準ヲ正當ニ

且ツ詳細ニ定メテ置キマス時ハ、損失ノ決

定トカ補償額ノ高等ニ付テ大體ノ問題ガ解

決スルモノト見テ居リマス、併シナガラ尙

ホ是デモマダ今申上ゲマシタヤウナ問題ガ

起ル虞ガアリマスノデ、サウ云フ場合ニハ

損失補償委員會ト云フヤウナモノデモ設ケ

テ、其ノ委員會ニ於テ損失ノ限度ヲ色々調

査スルト云フヤウナコトモ必要ニナルカモ

知レマセヌ、サウ云フヤウナコトモ一應考

ヘマシタガ、今ノ所差當ツテサウ云フモノ

ヲ設ケル必要モナイト考ヘテ居リマス、併

シ是ハ必要ニ依リマシテハ決シテ排除スベ

キモノデハナイト思ツテ居リマス、尙ホ實

際問題トシテモ、國家ト本件ノ如キ特殊會

社トノ間ノ紛爭ガ起ルコトハ想像シ得ナイ、

即チ國家ハ十分ノ責任ニ於テ重要礦物ノ増

産上必要ナル命令ヲ爲スモノデアルト云フ

建前デ進ンデ行キタイト考ヘテ居リマス、

ソレカラ尙ホ此ノ法律全般ニ付テ、其ノ效

果如何ハ要スルニ運用デアル、運用ノ如何

ハ人ニアルト云フヤウナ、長谷サシノ御趣

旨ハ洵ニ御尤デアリマシテ、是亦上局ニ傳

ヘマシテ、此ノ會社法ノ施行竝ニ會社ノ設

立、其ノ運用ニ付テ、十分御注意ヲ喚起ス

ルヤウニ致シタイト思ヒマス

○長谷委員 私ハ是デ終リマシタ

○八角委員長 加藤君

○加藤委員 私ハ先ヅ第一ニ貧礦處理ノ問

題ニ付テ御尋致シタイトデアリマスガ、是

ハ既ニ他ノ委員カラ色々ノ點カラ御質問ガ

アリマシタノデ、私ハ簡單ニ違ツタ觀點カ

ラ御伺シテ見タイト思フノデアリマス、所

謂礦山師ト云フ人達ガ山野ヲ駈廻リマシ

テ、新シク發見スル所ノ礦床ト云フモノ

ハ、概ネ貧礦デアリマス、是等ノ熱心ナ人

人ガ時間ト金ヲ費シマシテ發見シタ數多ク

ノ礦床モ、ソレノノ礦物ノ含有量ガ一見

採算點ニ達シナイ爲ニ、其ノ儘打捨テラレ

テアルノデアリマス、併シナガラ是等ノ所

謂礦山師ノ活躍ト云フモノガ、今日ノ礦物

増産ノ上ニ重大ナ役割ヲシテ居ルノデアリ

マシテ、國內需要ノ大部分ヲ輸入ニ仰ガナ

ケレバナラス金屬、殊ニ「ニッケル」、「ク

ローム」、錫、鉛、其ノ他ノ非鐵金屬ヲ自

給自足ノ域ニ達セシメント致シマスレバ、

是等ノ多クノ礦山師達ガ一攫千金ノ夢ミ

テ、山野ヲ駈廻ツテ發見致シマシタ所ノ是

等ノ貧礦ヲ、出來ルダケ多ク開發スルト云

フ特殊ナ方法ヲ完成シナケレバ、其ノ目的

ヲ達スルコトガ出來ナイト思フノデアリマ

ス、僅カナ獎勵金ダトカ助成金ヲ出シマシ

テ、民間業者ニヤラセル位ノコトデハ、其ノ

得ル所ハ極メテ微々タルモノデアリマス、

又本法ニ依ツテ出來マス所ノ會社自ラサウ

云フ事業ヲヤラウト云フノデアリマスガ、

要ハ我國獨特ノ貧礦處理法ト云フモノガ完

成セラレナケレバ駄目デアルト私ハ考ヘル

ノデアリマス、私ハサウ云フ我國獨特ノ貧

礦處理法ト云フモノガ、現在相當研究サレ

テ居ルカドウカ、其ノ點ニ付キマシテ政府

ハドウ云フ風ニ考ヘテ居ラレルカト云フコ

トヲ伺ヒタイトデアリマス

○小金政府委員 我國獨特ノ貧礦處理法ノ

研究ニ力ヲ致スベキコトハ御説ノ通りデア

リマス、金ニ付キマシテハ屢、御説明申上ゲ

マシタヤウニ、有ユル方面カラ「コスト」ヲ下

ゲテ、サウシテ貧礦ノ處理ガ出來ルヤウニ、

又技術ノ進歩發達ヲ促スベク、色々ナ施設

ヲスルト云フコトデアリマスガ、今御指摘

ニナリマシタ銅其ノ他ノ非鐵金屬ノ貧礦處

理ノ方法ニ付キマシテハ、是亦或ハ探礦獎

勵金ヲ出スカト、或ハ礦山ノ現地指導ヲスル

トカ云フヤウナ、「コスト」ヲ下ゲル方法ヲ講

ズルト同時ニ、此ノ帝國鑛業開發株式會社

ヲシテ、主トシテ貧礦ノ活用ト云フヤウナ

趣旨ニ於テ、此ノ法律案第十一條ニ列舉シ

タヤウナ仕事ヲサセル豫定デアリマス、尙

ホ技術上ノ貧礦處理法ニ付キマシテハ、是

ハ非常ニ大規模デ製鍊ヲシテ居リマス會社

ハ色々研究ヲ致シテ居リマス、小サイ設備

デ簡單ニ礦物ヲ製鍊スルヤウナコトハ、今

ノ所「コスト」ガ高ク付クノミナラズ、色々ナ

第三者ニ與ヘル被害、ソレカラ採收率ガ非

常ニ惡クナル虞ガアル、即チ採收率ガ惡イ

ト云フコトハ、天然資源ヲ冒瀆シテシマフ、

即チ世ノ中ニ出ルベキモノヲ、永久ニ陽ノ

目ヲ見サセズニ、抹殺シテシマフト云フヤ

ウナコトニナリマスノデ、サウ云フヤウナ

色々ナ點カラ考慮致シマシテ、貧礦處理ノ

問題トシテハ「コスト」ヲ下ゲルコト、ソレ

カラ製鍊、技術ノ進歩發達ヲ促スト云フコ

トニ在ルト思ヒマス、ソレ等ヲ兼ネ併セテ此

ノ帝國鑛業開發株式會社ヲ活用サセヨウ、

斯ウ云フ大體ノ具體的ノ考デアリマス、是

デ十分ダトハ勿論考ヘテ居リマセヌ

○加藤委員 本法ニ依ツテ相當「コスト」ヲ

下ゲルコトヲ期待シテ居ラレルコトハ、勿

論承知シテ居リマスガ、要ハ技術的ノ進歩

發達ヲ要スルノデアリマシテ、其ノ點ニ關

スル相當突キ進ンダ研究ヲスベク政府ノ

方針ガ立テラレナケレバ、此ノ目的ヲ達ス

ルコトガ出来ナイと思ヒマスノデ、此ノ點ニ付キマシテ、特ニ政府ノ御注意ヲ喚起シテ置キタイと思フノデアリマス、次ニ御尋致シタイコトハ、提出セラレマシタ資料ヲ拜見致シマシテモ、最近試掘、採掘願ガ非常ニ増加シテ居ルヤウデアリマス、其ノ結果デアリマセウケレドモ、是等ノ試掘、採掘願ヲ出シマシテモ、中々許可ニナラナイ、最近デハ早クテ半年、マア普通一年以上掛ラナケレバ許可ニナラナイ云フヤウナ状態デアアルノデアリマス、是デハ急速ニ生産擴充ヲ圖ルコトハ出来ナイノデアリマシテ、ソレノミカ發見者モ事業ニ著手スルコトガ出来ナイト云フヤウナ、色々ナ點カラ非常ニ困ル、其ノ結果是等ノ發見セラレタ鑛床ガ「ブローカー」ノ手カラ手ニ渡ツテ、早速試掘、採掘ニ掛レナイト云フヤウナコトニナルノデアリマシテ、私ハ其ノ點ニ付キマシテ、急速ニ生産擴充ヲ圖ラウト云フ上カラ、モット早く其ノ許可ヲセラレルヤウナ方法ヲ講ジテ戴カナケレバナラスト思ツテ居リマス、聞ク所ニ依リマス、鑛山監督局ニ於キマシテハ、非常ニ事務ノ敏活ヲ圖ツテ居ラレヤウデアリマスガ、地方ノ府縣ガ之ニ協力シナイト云フヤウナコトモアルヤウニ聞イテ居リマス、其ノ點ニ付キマシテ

ハ、モット地方ノ府縣ノ注意ヲ喚起セラレマシテ、ソレデモ駄目ナ場合ニハ、鑛山監督局カラ直接其ノ官吏ヲ地方ノ府縣ニ駐在セシメテ、事務ノ敏活ヲ圖ルト云フヤウナコトヲサレタラドウカト考ヘルノデアリマスガ、其ノ點ニ付テノ御意見ヲ承リタイノデアリマス

○小金政府委員

御尤ナ御質問デアリマシテ、其ノ點ニ付キマシテハ十分意ヲ用ヒテ

居リマスガ、直チニ地方廳或ハ營林局ト云フヤウナ所ニ、鑛山監督局ノ職員ヲ置クトカ、或ハ其ノ地方廳所在地等ニ鑛山監督局ノ職員ヲ分駐セシメテ、交渉セシメルト云フヤウナコトモ出来兼マスノデ、今ノ所デハ實ハ其ノ方面ノ色々ナ經緯モゴザイマスガ、何ト申シマシテモ、本體ノ鑛山監督局ノ職員ガオ話ニナラナイ程少カツタノデアリマス、サウ云フ關係デアリマスカラ、生産力擴充ノ線ニ沿ウテ活躍、活動セシムベキ、何ガシカノ出願處理ニ關スル人ト經費ヲ、本年度モ幾分増加シテ計上シテ戴イタノデアリマスガ、サウ云フ風ニ全部ガ揃ハナイト、一方ダケガ整備シテモ出願ノ處理ガ進捗致シマセヌ、ソコデ地方廳ニモ十分時局ヲ認識シテ戴イテ、必要ナレバ其ノ都度鑛山監督局カラ職員ヲ派シテ打合せヲサ

セルト云フコトニ、大點今ノ所致シテ居リマス、尙ホ此ノ點ニ付キマシテハ、十分考慮致シタイト存ジマス

○加藤委員

次ニハ是ハ多少本法トハ直接

ナ關聯ガ少イト思ヒマスガ、増産計畫ト共ニ配給ノ圓滑ト云フヤウナコトモ、考ヘテ行カナケレバナナイと思フノデアリマス、是ハ物資調整局ニモ關係スルコトデアリマスガ、此處デ伺ヒタイと思ヒマスノハ、幾ラ増産致シマシテモ、需要ヲ滿シ得ナイト云フヤウナ現在ノ状態ニ於キマシテハ、此ノ問題ニ相當重點ヲ置イテ考慮シテ戴カナケレバナナイと思フノデアリマス、國內生産力ノ擴充、殊ニ長期建設ヲ達成スル上ニ於キマシテ、最モ重要視セラレナケレバナラス所ノ、貿易ノ振興ト云フヤウナ點ニ大キナ要素ヲ致シテ居リマスル所ノ、又時局ニ潤ハナイ所ノ、平和産業方面ノ生産力擴充ニ大キナ關係ノアリマスル所ノ石炭ノ問題ニ付テ私ノ考ヲ申上ゲマシテ、政府ノ所見ヲ伺ツテ見タイと思フノデアリマス、平和産業ノ中デモ、特ニ燃料トシテ生産費ノ中ノ大ナル部分ヲ占メテ居リマスル所ノ、石炭ノ此ノ一、二箇年ノ暴騰ト云フモノガ、殆ド致命的ナ打撃トナツテ居ルノデアリマス、私ノ調査シタ所ニ

依リマス、石炭ノ價格ハ昭和十一年八月以降二箇年間ニ、一應ニ付テ約十三圓ノ値上リヲ示シテ居ルノデアリマス、勿論政府ハ此ノ點ニ付テモ相當重要視セラレマシテ、昨年九月政府ノ命令ニ依リマシテ、應當リ一圓八十錢ノ値下ヲ命ゼラレタノデアリマス、併シ結局十一圓以上ノ値上リトナツテ居ルノデアリマスルガ、十六圓乃至十八圓ノ石炭ガ、是ダケノ騰貴ヲシテ居ルノデアリマスカラ、時局ニ依ツテ潤ハナイ所ノ産業ニ取ツテハ、致命的ナ打撃デアルト云フコトハ分ルノデアリマス、而モ此ノ現在ノ石炭ノ値段ト云フモノガ、是以上下ガ餘地ノナイモノデアリマスルナラバ、是ハ何トモ致シ方ノナイモノデアリマスルガ、私ハ其處ニ大キナ疑問ヲ持ツテ居ルノデアリマス、私ハ此ノ點ニ付キマシテ、昨年ノ重要鑛物増産ノ法案ガ提出サレマシタ際ニモ、政府ノ御所見ヲ伺ツタノデアリマスルガ、ソレニ付テハ私ノ満足スルヤウナ御答辯ヲ得ルコトガ出来ナカツタノデアリマス、其ノ後私ガ色々苦心致シマシテ調査シタ所ニ依リマスルト、現在九州炭ハ若松港頭ニ於キマシテ、昭和系統ノ一等炭デ一應九圓前後、生産サレル、又互助會系統ノモノニ付キマシテモ、最高十一圓デ若松港頭マデ持

出サレルト云フコトハ、私ハ是ハ確實ナルモノデアルト考ヘテ居リマスルガ、サウ云フコトガ分ツタノデアリマス、然ルニ此ノ石炭ガ現在十九圓乃至二十圓デ取引サレテ居ルノデアリマス、其處ニ大キナ値開キガアリマシテ、是ハ當然石炭業者ノ純利益トナツテ擧ゲラレルモノデアラウト思フノデアリマス、最近政府ノ斡旋ニ依リマシテ、

色々ナ點カラ、私共ハ此ノ重要ナ物資ノ價格ノ出來ルダケノ引下ト云フヤウナコトヲ考ヘテ行カナケレバナラス時ニ於キマシテ、是ハ捨置キ難イ事實デアルト考ヘルノデアリマス、私ハ其ノ點ニ付キマシテ、政府ハ更ニ第二ノ値下ヲ命ゼラレル意思ガアルカドウカト云フコトヲ承ツテ見タイノデアリマス

ナ關係デ、決シテ石炭ノ値段ノ引下ニナルヤウナ原因ヲ示シテ居リマセヌ、唯石炭ガ斯ウ高イト云フコトハ、低物價政策ノ見地カラモ、餘程考慮ヲ拂フ必要ガゴザイマシテ、只今ノ御質問ノ趣旨ハ、其ノ方トモ關聯セシメテ十分研究致シタイト存ジマスガ、只今直チニ石炭ノ當該係ノ方ダケデ、

リマシテ、是ハ需要者側カラ見マスレバ直チニ分ルコトデアリマス、最近ニ於テハ今マデト同一品種トシテ配給セラレタ石炭ヲ使用シテ見マシテモ、非常ニ「カロリー」ガ足ラヌトカ、又色々ト粗惡炭トシテノ性質ガ増加シテ居ルト云フヤウナ事實ガアルノデアリマス、其ノ點ニ付キマシテ尙ホ參考トシテ申上ゲタイコトハ、此ノ問題ニ附隨シテ居ルノデアリマスガ、石炭業者ガ常ニ値上ノ口實ト致シテ居リマス生産費ノ増高ト云フ問題モ、此ノ點カラ考ヘテ見マスルト、甚ダ眉唾モノデアルト考ヘナケレバナ

合等ガ共同購入ヲスルコトニナツタノデアリマス、ソレニ付キマシテ昭和石炭カラ發表セラレタ原價ヲ見マシテモ、尙ホ最低十五圓五錢、最高十六圓四十五錢トナツテ居ルノデアリマス、之ヲ基準トシテ考ヘテ見マシテモ、尙ホ大キナ値開キガアル、是ガ生産業者ノ利益デアルト致シマシタナラバ、是ハ明ニ暴利ト言ツテ宜シイモノデアルト私ハ考ヘルノデアリマス、ソレバカリデハナク、尙ホ其ノ外ニ現在デハ石炭ガ非常ニ不足シテ居ル、石炭飢饉ノ状態ニアリマスルノデ、生産者ハ粗惡ナ石炭ヲ混炭スルノデアリマス、上等炭ノ中ニ混炭シテ居ルト云フ事實モ、是ハ明カデアアルノデアリマス、サウ致シマスルト、今日ノ石炭業者ト云フモノハ、非常ナ暴利ヲ貪ツテ居ルト私ハ斷言シテ差支ナイト思フノデアリマス、今日

○小金政府委員 色々石炭ニ付テ御調査セラレマシテ、其ノ結論的ナコトヲ御表示ニナリマシタガ、特ニ其ノ中石炭ノ中ニ粗惡炭ヲ混ゼテ、サウシテ石炭ノ品質ヲ落シテ、更ニ暴利ヲ貪ツテ居ルト云フヤウナ御言葉ガアリマシタガ、是ハ若シサウ云フコトガアレバ、刑法上ノ罪ニマデ進展スル問題デハナイカト考ヘマス、是等ノ取締ニ付テハ當局トモ打合セテ能ク調査致シマス、唯實質的ニ石炭ノ値上リガ思フヤウニ下ツテ來ナイト云フ問題ニ付テ大體御答致シマス、ソレハ昭和十三年ノ九月一日前ノ標準建値カラ、商工大臣ノ處分命令ヲ以テ、相當ノ幅ノ引下ヲ命ジテ今日ニ及ンデ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマスガ、私ハ決シテ鑛山側ノ肩ヲ持ツ意思ハアリマセヌガ、採掘費ガ減ツテ居リマセヌ、詰リ努力、材料ノ値段ガ、サウ減ツテ居ラナイノミナラズ、色々

○加藤委員 私ハ石炭ノ價格ノ適正化ト云フ問題ニ付テ、唯鑛山局ダケニ強く要求致シマシテモ、是ハ直チニ達成セラレル問題トハ思ヒマセヌノデ、私ハ強く政府ノ注意ヲ喚起シタイト思フノデアリマス、只今申シマシタヤウニ、今回ノ昭和石炭ガ有力ナ鑛業組合ノ共同購入ニ應ジテ發表致シマシタ値段ノ標準ニ考ヘテ見マシテモ、尙ホソコニ生産費ト販賣價格トノ間ニ非常ナ開キガアルコトハ、是ハ私ハ確信ヲ以テ調査シタ事實デアリマスカラ、政府ハ此ノ點ニ基準ヲ置カレマシテ、將來善處シテ戴キタイト思フノデアリマス、只今混炭ノ事實ガアルナラバ、是ハ刑法上ノ問題トシテモ取扱ハナケレバナラスト云フ御話ガアリマシタガ、是ハ明カニサウ云フ事實ガアルノデア

ラヌノデアリマス、即チ今マデ廢炭或ハ二號炭、所謂繁炭ガ一號炭ヘ多量ニ混入サレルト云フコトハ、私ガ申スマデモナク、生産費ヲソレダケ低下サセテ居ル等デアリマス、今マデ廢炭トシテ捨テテ居ツタ物ヲ一號炭ニ混入スルコトハ、ソレダケ生産費ノ低下ニナル譯デアリマスガ、一方ニ生産資材、勞賃ノ騰貴等ノ爲ノ生産費ノ増加ガアルト致シマシテモ、玆ニ相殺サレルコトニナルノデアリマシテ、是ハ政府ガ十分調査サレマシテ、石炭生産業者ガヤレ生産資材ノ昂騰、勞賃ノ値上リト云フコトヲ材料ニ致シマシテ、其ノ石炭ノ値上ノ主張、或ハ値下反對ノ主張ヲ致シマシタ場合ニ、私ハ

此ノ點ヲ政府ハ十分調査サレル必要ガアラ
ウト思フノデアリマス、最後ニ一言附加シ
テ置キタイト思ヒマスガ、是ハヤハリ現實
ノ問題トシテ政府ハ直チニ調査シテ行カナ
ケレバナラナイ、今マデ一號炭ト稱セラレ
テ市場ニ出テ居ツタモノガ、事實ハ一號炭
デナカカツタト云フコトニナリマス、是
ハ非常ナ打撃ヲ需要者側ニ與ヘルモノデア
リマスカラ、此ノ點ニ付キマシテハ、私ハ
直チニ政府ハ調査ニ著手シテ戴カナケレバ
ナラナイ問題デアルト考ヘマスルガ、此ノ
點ニ付テ政府ハ其ノ意思ガアルカナイカト
云フコトヲ最後ニ伺ヒマシテ、私ノ質問ヲ
終リタイト思ヒマス

○小金政府委員 石炭ハ銘柄別ガ非常ニ多
イノデアリマシテ、只今加藤サンノ仰セニ
ナリマシタヤウニ、其ノ間動モスルト不正
ナ品質、品種ニ良イ名前ヲ冠シテ賣ルヤウ
ナ虞ガナイトハ申サレマセス、唯斯ウ云フ
時局デアリマスノデ、撰炭方間ニ合ハナイ、
撰炭不十分ノ廉デ「カロリー」等ガ落チル場
合モアルヤウデアリマスガ、尙ホソレ等ノ點
ニ付テハ十分手ノ届ク限り調査モ致シ、監
督モ致ス意思デゴザイマス、尙ホ石炭ノ生
産費ノ問題ニ付テ、吾々ハ石炭鑛業者ノ申
出ヲ其ノ儘決シテ受取ラナイヤウニ致シマ

ス、十分調査致シマス、唯斯ウ云フ際デア
リマスノデ、不熟練ノ坑夫ガ非常ニ多イノ
デ、其ノ能率等ガ低下シテ居ル事實モアリ
マス、其ノ他色々ナ條件ヲ調査致シマスガ、
決シテ唯漫然ト其ノ届出トカ申出ダケヲ採
用スルコトハ致サズ、十分御趣旨ノアル所
ヲ體シマシテ注意ヲ致シマス

○八角委員長 ソレデハ後ハ小野君ノ御質
問ト、宮脇君ノ商工大臣ニ對スル御質問ノ
留保ト、高橋君カラ十二條ニ關シテ御答辯
ヲ求メラレテ居ツタト思ヒマス

○高橋委員 私ノ方ハ分リマシタ

○八角委員長 ソレデハ留保ハ御取消デス
ナ——ソレダケ殘ツテ居リマス、次會ハ明
日午後一時半ノ豫定デゴザイマス、何レ公
報デ確カナ所ヲ御知ラセ致シマス、本日ハ
是ニテ散會致シマス

午後零時三十分散會

昭和十四年三月十四日印刷

昭和十四年三月十五日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局